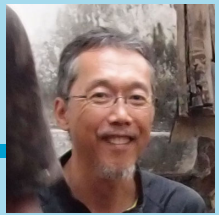
打ちのめされて、それでも論文を出版する



自然・環境マネジメント研究部　生態研究グループ　高橋 鉄美

研究者は、明らかにした事実を論文にしてナンボです。しかし、それが大変なこともよくあります。

ニッポンバラタナゴという小さな淡水魚は、全国で交雑が進み、多くが雑種になっています（本物は下の水槽に入っています）。そこで全国の個体を遺伝的に調べ、兵庫県には雑種ではない、（ほぼ）純系がいることを明らかにしました。これは新発見！です。それで論文にまとめ、あるジャーナルに投稿しました。すると、一発でリジェクト（掲載拒否）されてしまいました（右のレターです）。仕方ないので別のジャーナルに再び投稿したのですが、結果は同じでした。内容に自信があっただけに、二度もリジェクトされたのはショックでした。自信を失いかけていましたが、共著者にも励まされて３つ目のジャーナルに投稿し、審査に一年半ほどかかって、なんとかアクセプト（受理＝掲載してもらえる）に漕ぎつけました。

Ref: [redacted]_2018_707
Title: A ddRAD-based population genetics and phylogenetics of an endangered freshwater fish from Japan
Journal: [redacted]

Dear Professor Takahashi,

Thank you for submitting your manuscript to [redacted]. Unfortunately, after reviewing your paper I feel that it is not suitable for publication in the journal and is unlikely to be favorably reviewed by the referees. Accordingly, the manuscript is being returned without review.

Thank you for giving us the opportunity to consider your work.

Kind regards,

[redacted]
Editor-in-Chief
[redacted]

実際のリジェクトレター。「うちのジャーナルでは無理、だから査読にも出さないよ」という意味。

研究では、発案・調査・解析など大変なことが続きますが、最後にこのような苦労が待っていることもあります。

さらにその後、苦労して出版した論文を批判されでもしたら、もう立ち直れないほどダメージを受けます。それでも我々は、何とか研究を続けているのです。